良質な粗飼料を活用した生乳生産

～良い粗飼料で搾ろう!!～　対象：中頓別町松音知地域７戸

背景とねらい

生乳生産1.5千ｔ（26戸）JA東宗谷中頓別支所内松音知地区を対象に粗飼料基盤を活かし生乳生産性を高めることを目的に活動している。

地域の生産戸数はこの５年で３戸減少したにもかかわらず、地域の生産乳量は維持されており、生産意欲向上とともに収益確保にむけ取り組んでいる。当地域は様々な飼養形態があり、宗谷の縮図でもある。経産牛頭数一頭あたりの草地面積は拡大し、近年は厳しい経営情勢の中、良質粗飼料生産および個体乳量を確保した安定した収益確保が必須である。

中頓別町　松音知地域　　7戸
出荷乳量　4,085 ｔ（町内の27.8%）
草地面積　398ha（町内の11%）

	繋ぎ牛舎	フリーストール
生乳出荷	458頭 3戸	264頭 2戸
内放牧	（2戸）	（1戸）
牧草販売	2戸	

TMRセンター加入　2戸

活動経過

粗飼料生産および生乳生産向上のために、以下の取り組みを行った。

推進項目1　粗飼料生産性の向上　細切りサイレージ調製法の改善･･･①
サイレージ用とうもろこしの排水性改善･･②

①収穫の早期化にあわせ、
サイレージ添加剤の使い分けを実施
（前半ギ酸・後半乳酸菌添加）

②カットドレーン試行・明きょの床下げ実施

推進項目2　　生乳の生産性の向上　　経産牛の飼料給与改善

送風機の角度調整や、増設等を実施。暑熱対策を強化し、搾乳牛の快適性を高めた。

活動成果

推進項目1　粗飼料生産性の向上　　細切りサイレージ調製法の改善･･･①
サイレージ用とうもろこしの排水性改善･･②

細切りサイレージ調製法の改善・・・①

収穫が７日程度早まりＴＭＲセンターのサイレージ品質については良好で、Ｒ６年産刈り遅れと同時給与することとなり品質安定化に貢献できた

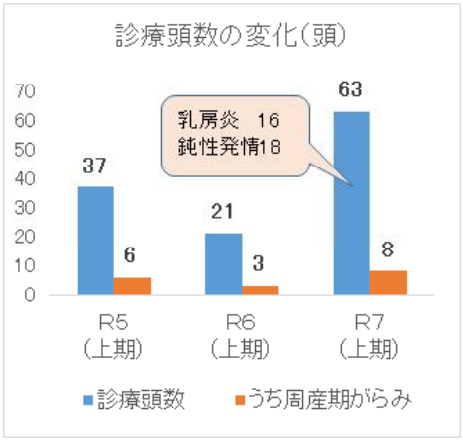
（Ｒ７年　生草分析：例１　CP12%　NDF64.9%　例２　CP10.3%　NDF66.4%）

サイレージ用とうもろこしの排水性改善・・②

栽培圃場では粘土層の付近でドレーンが浮き上がる現象となり、施工深さを確保できず不十分な施工となった。Ｄ農場は自らサブソイラーを調達し秋施工した。また、収穫できなかった滞水部は排水確保にむけた明きょの床ざらい施工が即日実施されるなど翌年への栽培対応が行われた。

推進項目2　生乳の生産性の向上　　経産牛飼料給与改善

暑熱対策の継続とともに乾乳牛の飼養管理改善効果が現れ、2年連続死廃頭数は減り、診療内容が周産期がらみから乳房炎へ変化した。



Ｃ農場では牛舎の送風を強化することで牛の横臥率が上がり昨年にくらべ夏場の乳量低減が緩和された年となった。また計画乳量が達成できるなど、牛のコンディションが安定した。

経済面では、コロナ禍以降、肥料費や飼料費の高騰による苦戦をしいられた。苦しい情勢の元、３年が経過し、Ｒ７年後半以降乳価の値上げがあり、５年前と比較して一度下降した所得は戻りつつある。

R7年度の到達目標	(R2)%	(R7)%	備考
個体乳量の増加100→105%	100	104.2	8209kg→8552kg
農業所得の維持　100%	100	104.1	16,543→17,288千円

今後の課題と対応

粗飼料品質の向上に向けて継続支援する。サイレージ用とうもろこし栽培については排水性の改善および品種比較試験の結果に基づく品種選定をすすめ、安定収量を目指す。また、１番草の栄養収量向上にむけて支援する。

飼養管理改善においては酪農基本技術でロス低減をめざす。繁殖技術・乳房炎ロスに着目し、必要妊娠牛の年間確保や受け取り乳代単価の年間安定を目指し、高い乳価ロスを圧縮し所得確保の一助とする。